

## 出生前診断をお考えの方へ

当院では、通常の妊婦健診のほかに、スクリーニングを含めた出生前診断検査を適切な周産期遺伝カウンセリングを実施した上で行っています。

周産期遺伝カウンセリングとは、妊娠・出産に際しての「遺伝」や「遺伝子」、それに関わる病気についての相談をお受けするものです。また、妊娠初期に赤ちゃんのダウン症をはじめとする染色体疾患や先天異常（疾患）などを心配し、これらについての検査を考えている妊婦さんやご夫婦に、各種検査の違いや検査することで起こる問題点などについての情報を提供するとともに、個別の背景などについてのご相談にもお答えします。

スクリーニングとは、赤ちゃんの形態学的異常をチェックするものです。出生前に赤ちゃんの形態的な変化を評価することで赤ちゃんに適した妊娠・出産管理を行うことを目的に行われています。しかし、このスクリーニングによって赤ちゃんに治療できないような重篤な病気が見つかることがあります。

当院では、さらに詳しい検査として [OSCAR（オスカー）検査](#)が可能です。

---

### <OSCAR 検査>

OSCAR（オスカー）検査とは、NT（胎児の首の後ろのむくみ）と血清マーカー（PAP-A, free  $\beta$ -hCG）との組み合わせにより、3つの染色体異常のリスクを算定するものです。

この組み合わせ検査は、欧米やアジア、アフリカなど世界中で妊娠初期検査のスタンダードとして使われており、OSCAR 検査あるいは、コンバインド検査とも呼ばれています。

妊娠初期（11～13週）に行う母体血清マーカー（PAPP-A, free  $\beta$ hCG）と正確に計測された赤ちゃんのNTを組み合わせることにより、21（ダウン症候群）、18、13トリソミーの検出が可能となります。

さらに、当院では、鼻骨、三尖弁逆流、静脈管血流などの超音波マーカーを加えて検査を行うため、検出率は95%とかなり高率となります。

正確なNT測定は、数ミリでも大きく結果が変わるため、熟練した医師でも非常に難しく、イギリスに本部を置くFetal Medicine Foundation（FMF）のライセンスを取得した医師による計測が推奨されています。

また、OSCARシステムは、このライセンス保持者のみ利用が許されており、どの施設でも可能なものではありません。

検査結果は2～3日後に分かります。

羊水検査を受けるのは抵抗があるが血液検査なら、といった方への任意検査です。